【熊本公徳会賞】

自分と向き合う

熊本県立芦北高等学校　２年　黒木　咲良

私は高校に入学するまで、自分のことについて深く考えたことがありませんでした。将来のことや挑戦したいこと、自分は何をすればいいのか分からないまま、周りから提案されたことを頼りに、なんとなく過ごす毎日。しかし、今の私は、芦北高校福祉科で介護福祉士を目指し、充実した日々を送ることができています。

中学校３年生の頃、私は先生から「将来何になりたいの。」と聞かれ、「なりたいものがありません。」と答えるような子でした。なりたいものがないわけではないのに、自分の考えが反対されるのではないか、という不安があったからです。私は小学生の頃、クラスの人たちから無視や考えを否定され、嫌な思いをした経験があり、話をする前から、諦める癖が付いていました。家に帰っても幼い弟たちがおり、面倒を見て、母の手伝いをし、頼られる存在。自分の話をしたり、聞いてもらう時間がありませんでした。進路を決める時にもう一度、同じ質問をされました。私は以前と同じように「ありません。」と答えましたが、「自分の気持ちに素直になりなさい。」と言われました。勇気を出して「誰かの役に立ちたい。医療関係の仕事に就きたい。」と答えました。保育園の時、担任の先生が入院したことをきっかけに、漠然と「人を支えることができる人になりたい」と思っていたからです。すると、先生は「黒木さんらしい良い夢だ。」と受け止めてくださいました。自分の夢を認めてもらえるとは思っておらず、涙が出ました。「自分の気持ちをごまかすのはやめよう」。その日から、私は自分の気持ちを言葉にするようにしました。

高校は、介護福祉士の資格取得を目指し、医療や福祉について学ぶことができる、芦北高校に進学しました。クラスには同じ中学校出身の人はおらず、不安でしたが、自分から積極的に話し掛け、すぐに打ち解けることができました。最近では相談役になることが多く、「考えは否定せずに受け止めよう」と思えるのは、私自身の辛かった経験があるからかもしれません。専門教科の学習では、ベッドメイキングや入浴介助の仕方など、友人たちと協力し、工夫しながら、知識や技術の習得に励んでいます。施設実習では、利用者様とのコミュニケーションや観察を通してアセスメントし、「どうしたら利用者様が話をしやすいか」「利用者様のニーズは何か」と意見を交換したり、施設の方からアドバイスをいただき、吸収することが沢山あります。

自分を変えることは、難しいことです。それでも、自分の存在や、考えを認めてもらって初めて、人は少しずつ変わることができるのではないでしょうか。自分の意見を出すことで、周りの参考になったり、他者から違う視点の考え方を取り入れることができます。そして、自分のことを話せると思うと、自然と自分と向き合う時間が多くなります。今まで知らなかった新しい自分を発見しながら、夢の実現に向けて頑張っていきます。